

令和 6 年 8 月 10 日

東員町議会教育民生常任委員会委員長

三林 浩 様

東員町議会

山崎 まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 6 年 7 月 30 日 (火) ~7 月 31 日 (水) 【 2 日間】
研修 (視察) 先	7 月 30 日 ・ ・ 岡山県奈義町 7 月 31 日 ・ ・ 兵庫県明石市
目的 (テーマ等)	子育てを核としたまちづくり
参加議員名 (複数の場合)	三林委員長、片松副委員長、 大崎委員、広田委員、伊藤まり委員、山崎委員
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

《研修概要、内容》

7月30日・・・岡山県奈義町 視察

◎奈義町の概要

- 岡山県東北部、 ●人口5,700人余、
- 基幹産業＝農業、 ●「奈義ビーフ」が特産の畜産の町、
- 陸上自衛隊「日本原駐屯地」と演習場を抱える『基地の町』
- 平成の大合併の時には、合併しないことを住民投票で選択した。

◎以前の子育て支援の大きな課題

- 中学校の給食もない
 - 幼稚園の放課後預かり保育もない
- ①親は、幼稚園に子供が通うようになると仕事を辞めるような事態があった。
- ②高校に通うようになると、月に¥25,000もの通学費用が大きな負担になっていた

◎2007年当選の花房昭夫 町長の政治姿勢

- 「町民の身近なところに目をやる政治」
- 「良いことはどんどん進める」
- 「箱もの建設の抑制」

→次から次へと子育て支援を進める

- 『子育て応援宣言』（2017年）

《内容》

- ① 子どもの誕生に際し、10万円のお祝い金の支給
- ② 小、中学校の教材費の無償
- ③ 子ども医療費は、高校卒業まで無料
- ④ 学校の給食費を半額
- ⑤ 家庭で育児している世帯【3才まで】に月額¥15,000支給
- ⑥ 高校就学支援金を月額¥2万（年額24万）支給
- ⑦ 任意のワクチン（おたふく風邪等）接種の無料化
- ⑧ 第2子以降の子どもさんの保育料・幼稚園授業料・学童保育利用料を半額。第3子以降は無料。
- ⑨ 不育治療助成（年額30万円が限度）、
不妊治療助成（年額20万円が限度）、
- ⑩ 奨学育英金（無利子で年額60万円を貸与）。
卒業後、奈義町に居住で以降、全額免除。

→合計特殊出生率 2・81に（2014年）

〃 2・95に（2019年）

全国的に注目される！ 岸田首相も訪問！

- ◎「なぎチャイルドホーム」を基軸とした地域ぐるみの子育てサポート
 - ・誰でもいつでも気軽に通える
 - ・親通しが協力しあって子どもを保育したり、地域の高齢者が預かったりすることで、「まちとのつながり」を生み出している。
 →孤立感を抱えがちな子育て世代を精神的にサポート
- ◎「奈義しごとえん」
 - ・子育て世代の「ちょっと働きたい」を叶える就労支援施設。
- ◎住民一緒に町の課題を考える
 - ・ワークショップにいろんな世代の人（子ども、若者、高齢者）に入ってもらおう。高齢者福祉にもお金を使っていることをきちんと説明し理解してもらっている。
 - ・住民のみんなで町の未来を考える。

7月31日・・・兵庫県明石市 視察

◎明石市の概要

- 市の東と北は神戸市に接している。 ●人口 30万5880人（11年連続人口増）
- 住みやすいと感じる人が9割（市民満足度上昇中）

(1) 「こどもを核としたまちづくり」の実現

《内容》

- ① こども医療費の無料化（所得制限なし）
 - 2021年～高校3年生まで完全無料・薬代、市外の病院も無料
- ② 第2子以降の保育料の完全無料化（所得制限なし）
 - 2019年～副食費も完全無料
- ③ 0歳児の見守り
 - おむつ無料お届け、選べる赤ちゃん用品（所得制限なし）
- ④ 中学校給食の無償化（所得制限なし）
 - 2020年～中学校給食の無償化
- ⑤ 公共施設入場無料（所得制限なし）
 - 天文科学館、文化博物館、海浜プール、親子交流スペース
- ⑥ 18歳まで児童手当拡充（2023年10月～2024年9月予定）
- ⑦ 高校生給付型奨学金&学習生活支援
- ⑧ 離婚家庭の様々な支援（養育費、面会交流の支援）
- ⑨ 児童相談所の設置
- ⑩ 児童虐待対応職員の研修拠点施設の設置
- ⑪ こども食堂
- ⑫ 里親支援事業
- ⑬ 障がい者施策の充実
 - ・「主話言語・障がい者コミュニケーション条例」制定（2015年）
 - ・「障がい者配慮条例」制定（2016年）
 - ・「旧優生保護被害者支援条例」（2021年）

・「あかしインクルーシブ条例」(2022年)

年齢・性別・障害・国籍に関わらず全ての人が安心して自分らしく生きられるインクルーシブなまちづくり

⑭ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

⑮ 犯罪被害者支援

⑯ LGBTQ+

パートナーシップ・ファミリーシップ制度

明石にじいろ階段(明石駅南)

⑰ 持続可能な社会に向けた地球と自然に優しいまちづくり

《所 感》

奈義町

奈義町は以前は、中学校給食もない、幼稚園の放課後預かり保育もなく、子どもが幼稚園に通うようになると親は仕事を辞めるという事態があったし、月に2万5千円の高校の通学費用が大きな負担など、子育て支援に大きな課題を抱えていましたが、花房町長が2007年に就任し、子育て支援施策を次々に進められました。

町長のトップダウンだけでなく、2回の署名運動が力となって「施設一体型小中一貫校」の建設をストップさせるなど、住民運動組織の力で要求を実現してきたことも大きかったと思います。合計特殊出生率2・95(2019年)で全国的に注目を浴び、マスコミ報道、岸田首相も町を訪問して話題提供しています。

しかし、合計特殊出生率は、あくまでも子育て支援の取り組みの結果であり、目標にするとおかしなことになるといわれています。

「子どもを産めよ、増やせよ」の運動になってしまうのではなく、「子どもを産み育てたい」という住民に、安心して子育てができるような環境をつくるという事に尽きます。

奈義町は自衛隊の町でもあり、「自衛隊関連のお金が交付金、補助金、その他を含め町の一般会計歳入の6～9%を占め、自衛隊の人口が町民の1割、有権者の1割程度です」。奈義町の単町の子育て支援策の事業費は一般会計歳出予算の2～3%になっています。奈義町視察で得たものは、町独自の経済支援の充実だけでなく、「奈義町の強みは地域ぐるみで子育て支援に取り組んでいること」そして『少子化対策は最大の高齢者福祉!!』と言い切るほどの地域社会全体の意識を変えていく事の重要性を痛感させられたことが、非常にインパクトがあり、参考にさせていただけることが多く有益でした。

子ども歌舞伎の取り組みも、今回の視察内で取り上げられていませんでしたが、資料などから興味深い取り組みを参考にさせていただきます。

明石市

まず子育て世帯にターゲットを絞って『5つの無料化』「医療費」「保育料」「おむつ」「給食費」「遊び場」と『寄り添う支援の充実』という、子育て支援施策をととても分かりやすくインパクトのあるものにする 것도大切であると感じました。

子育てに関する経済的支援のみでなく、心理的支援も同時に充実させることで、安心して子育てができるという時間が広がり、その結果人口増と地域経済の活性化という効果にもつなげることができたことはとても大きな成果でした。

市域が狭く、まちの特性を踏まえた創意工夫としての明石市のまちづくりポイントとして「①理念の共有」「②負担軽減」「③寄り添う支援」「④環境整備」と4点に整理されていることの中に、「すべての子どもたちをその子の親だけでなく、行政も地域もまちのみんなで本気で支援すれば、まちの好循環が生まれ、みんなが幸せになる」という明確なビジョンを掲げられていることがあります。

これは奈義町さんも明石市さんも共通していることですが、子どもを核としたまちづくりの方向性を定め、それを住民はじめ職員にも丁寧に共有化してきていることだと思います。

そして、地域における子育て活動の充実を図っていくためには、地域の皆さんの協力が欠かせなくて、まちのみんなで子どもを見守り育てる事への理解と賛同が得られていることが非常に大きいと思いました。

子どもを核としたまちづくりの全ての取り組みが一体となって住民の安心に繋がっていくものであるという手ごたえを、今回の視察で訪れた両自治体から学ばせていただきました。

そして、これからの自治体には、方針決定と、それを積極的に実行に移す実践力と全庁的にかつ、住民との協働の取り組みが求められることを強く実感させられました。

言葉で言うのは簡単ですが、「誰もが住みやすいまち、安心して暮らせるまち」「子どもを核としたまちづくり」は、行政の施策だけでは臨めず、住民と協働の地域づくりの仕組みづくりを考え、住民と一緒に進めるまちづくりのなかで、東員町も前に進めていけるように引き続き、積極的に考え取り組んでいきたいです。